東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 12 月 18 日

子供の教育

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、人間を純潔で教育から学ぶことが出来るかけがえのない存在として創造されました。人間とは、本来良いことにも悪いことにも引かれるものです。預言者ムハンマドは、人は生まれ付き持っている良心や理性のような精神的な能力は宗教や文化的環境によって育てられるものです。と述べられています。クルアーンの以下の節は『アッラーはあなたがたが何も知らない時、あなたがたを母の胎内から生まれさせ、聴覚や視覚や心（知能感情）をも授けられた。必ずあなたがたは、感謝するであろう。』[1]人間が潜在的に能力を持っていることを示しています。したがって人は神から授かられた潜在的な能力を教育によって、より高めていく責任を負っています。

崇高なるアッラーは、クルアーンにおいて『あなたがた信仰する者よ、人間と石を燃料とする火獄からあなたがた自身とあなたがたの家族を守れ。そこには厳格で痛烈な天使たちが（任命されて）いて、かれらはアッラーの命じられたことに違犯せず、言い付けられたことを実行する。』[2]と仰られ、子供達に現世と来世のために備えるよう警告を与えています。同じようにアッラーの使徒も『父親が子供に与えたものの中で良心や道徳心ほど良いものはない』[3]と述べられ、子供の教育の重要性を説き、子供を放置してはいけないと警告されています。

親愛なるムスリムの皆様。アッラーの使徒の子供への接し方や子供の教育にまつわるハディースによれば、子供の教育は、お母さんのお腹の中にいる時から始まっています。預言者が生まれた子供のために良い人生を長く送れるようにアッラーに祈願することを進めたと預言者の妻であるアーイシャは、伝えています。[4]そしてアッラーの使徒は、生まれた赤ちゃんの耳にアザーンとイカーマを吹き込むことを命令し、彼の孫であるハサーンとフセインが生まれた時、彼らの右の耳にアザーン、左の耳にイカーメを唱えました。[5]そのことは、子供が生まれるとイスラームの聖なるものと接するべきだということを私たちに教えています。さらに敬愛する預言者は、生まれた赤ちゃんに対してもう一つ大切にしたことは、子供に良い名前を与えることです。預言者は、『終末の日に皆、自らの名前と父の名前で呼ばれる。したがって名前は美しくしなさい。』[6]と述べられています。

ムスリムの皆様。預言者ムハンマドは、子供に宗教的なことを教える時、分かりやすいことから始め、難しいことは後まわしにしました、さらに子供にはまずが基本を教え、それから細かいことを教えました。したがって子供に最初に教えるべきことは、イスラームの基本である信仰のことです。預言者の教友であるジュンデブ・ビン・アブドゥッラーは、『私達は、アッラーの使徒から信仰の基本を教わった後、クルアーンの読み方を勉強しました。そうすることによって私達の信仰心は深まりました。』と伝えています。[7]聖預言者は、まず信仰の基本を教え、次ぎに子供に礼拝の仕方を教えなさいと次ぎのハディースンで『子供が七歳になったならば礼拝の仕方を優しく教えなさい。』[8]と説かれています。預言者ムハンマドは、子供の宗教教育でもう一つ大切なことは、クルアーンを詠むことだと教えています。アッラーの使徒は、エネス・ビン・マーリクに対して『息子よ、クルアーンを詠むことを放棄してはいけない。なぜならクルアーンは病んだ心を癒し、醜いことや悪事から人を遠ざけ、そして度が過ぎることから人を守ります。』[9]と薦めています。

[1] 第 16 章 78 節
[2] 第 66 章 6 節
[3] ティルミズ,ブッル 33
[4] ブハーリ, ダアワート 31
[5] エブーダーブード,エデブ 107
[6] エブーダーブード,エデブ 61
[7] イビンマージェ,スネヌ 9
[8] ティルミズ,, メワーキーツッサラー 183
[9] デイレミ, ムスネドゥルフィルデウス II/377